

(様式1) 実施報告書

1 応募者情報

(1) 応募者団体情報

団体名	公益財団法人 仙台観光国際協会
-----	-----------------

(2) 都道府県・政令指定都市からの指定の有無及び連携(応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載)

①都道府県・政令指定都市からの指定の有無

(応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載)

○指定の有無 ☒ ・無

○指定の内容

仙台市実施計画 2021-2023 において、日本語学習支援をはじめとする多文化共生推進事業について、同協会と協働して実施することとしている。

②都道府県・政令指定都市との具体的な連携

(応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載)

応募者の所管部署である仙台市交流企画課が引き続き総合調整会議へ参加し、地域日本語の体制整備に向けた関係部署・機関等との調整で連携を行う。

応募者：教室の企画・実施に向けたコーディネーターとの調整、広報、日本語や生活上の課題を抱える学習者のフォローアップ

仙台市：仙台市関係部署を通じたオンライン教室の広報、総合調整会議開催に向けた仙台市関係部署・関係機関との連絡調整

2 事業の概要

(1) 全体概要

①事業の名称	仙台市における地域日本語教育の体制整備事業
②目的等	1 目的 仙台市内において、生活のための日本語教育が必要な外国人、特に児童生徒等が、居住地や環境を問わず、日本語学習の場にアクセスできることを核とした日本語教育環境と必要な体制を整備する。 そのために、日本語教育が必要な児童生徒が多く在籍する小中高等学校と、日本語教育実施機関(大学、日本語学校、専門学校、市民団体等)が連携し、新たな教室の開設、日本語教育人材の育成とスキルアップ、日本語教育に関する情報共有・発信の強化等に取り組み、日本語教育の実施体制の構築を図る。 年次計画3年目にあたる今年度は、令和2～3年度に実施した「日本語を母語としない小・中学生のためのオンライン教室」を引き続き実施する。さらに、仙台市の関係課との連携のもと、日本語教育が必要な児童生徒等について、日本語教育の機会充実にに向けた支援体制の充実に向け、地域日本語教育実施機関・団体とのネットワーク構築、およびノウハウの共有を図る。

併せて、昨年度に実施した日本語初学者のためのオンライン日本語教室を継続する。昨年度に日本語教育が必要な児童生徒等を支援するにあたっては、その保護者の日本語学習支援が重要であるという認識のもとで成人対象のオンライン教室を実施したところ、特に初学者を対象とする日本語教室のニーズが高いことが明らかになった。そこで、子どもが在籍する学校や、保護者自身の職場をはじめとする日常生活での日本語コミュニケーションの改善につなげるため、初学者の成人を対象とした日本語教室を実施する。

2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像

【現在の状況：図示も可】

令和4年6月1日現在、仙台市内の市立学校への聞き取りから 272 名の外国籍児童生徒のうち小学校児童 100 名、中学校生徒 8 名が日本語指導の支援を受けているか、必要としている状況である。

こうした児童生徒に対する支援策として、市教育委員会事務局では学校からの要請に応じ母語での意思疎通が可能な指導協力者を派遣しているほか、特に日本語教育を必要とする児童生徒が多い学校に対し加配教員の配置を行っている。しかし、指導協力者の派遣回数には上限（最大 30 回）があり、加配教員が配置されていない学校に通う日本語教育が必要な児童生徒も多数存在しているため、日本語の理解が不十分なまま授業や学校生活を送っており、意思疎通の困難から生じる児童生徒同士のトラブル等も報告されている。

このような日本語能力の欠如は学校生活のみならず、当該児童生徒の日常生活にも重大な支障を及ぼしているが、児童生徒が散在しており既存の地域日本語教室にはアクセスできないことや、日本語教育実施機関が受講対象とする学習者からも漏れており、生活のための適切な日本語教育を受ける機会を逸している例が散見される。当該児童生徒を受け入れる学校側にしても、どのように指導すればよいのか知識や経験が不足しており、結果として当該児童生徒の日本語教育が放置されたままになってしまっていることが多い。

また、このような児童生徒等の保護者（両親またはどちらかの親が外国人である場合が多い）は、これまでの十分な日本語教育の機会がなくても生活できているが、子どもの入学・進学といったライフステージの変化によって日本語でのコミュニケーションへの支障を自覚・認識する傾向にある。学校での必要な事務手続きや教師とのやりとりのほか、他の保護者や近隣住民等の地域との意思疎通、職場での意思疎通に対する支援を行うため、適切な日本語の学習機会を設ける必要がある。

【構築を目指す体制：図示も可（上記に構築する体制を追記）】

当協会は、本事業以外で実施している各種の多文化共生事業により、日本語教育実施機関（大学、専門学校、市民団体等）との関係性は構築できているが、上記のような日本語教育が必要な児童生徒等とその保護者への日本語学習機会の充実という側面においては、それらの団体・機関との連携の余地が十分にあると考えられる。そこで、日本語教育実施機関及びそれらに所属する日本語教育人材が参加し、地域社会で当該児童生徒等とその保護者の日本語学習を支援するための場づくりを検討する。将来的には、放課後の教室や市民センター等の社会教育施設を活用した居場所づくりをはじめとした、日本語教育を入口とした各種支援の体制をつくり、当該児童生徒等やその保護者が不自由を感じることなく暮らすことができる体制の構築を目指す。

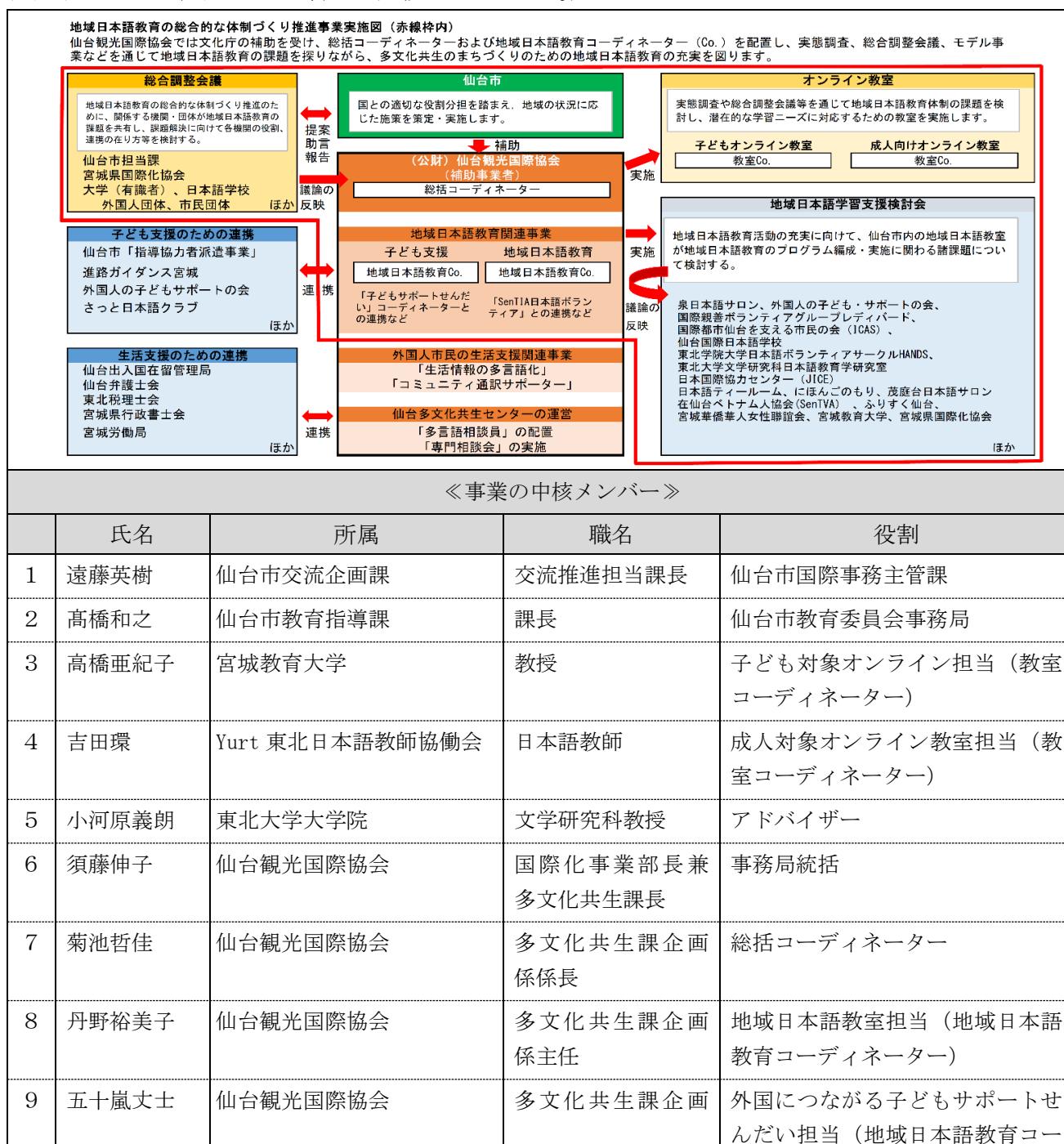
(2) 令和4年度事業の概要

①事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
②前年度までの年次計画における進捗状況（新規応募団体は記載不要）	
初年度（令和2年度）以降、総括コーディネーター1名及び地域日本語教育コーディネーター2名を配置し、各年2回の総合調整会議を開催し、関係者が一堂に会することで市内の日本語教育に関する情報や、コロナ禍を受けての運営方法等を共有することができた。 事業2年度目（令和3年度）は、上記の取組に加え、宮城教育大学の協力のもとモデル事業（試行的事業）として「日本語を母語としない小・中学生のためのオンライン教室」を3期間にわたって実施した。また、仙台市に居住・就労する成人を対象にオンライン教室を試行した。	
③前年度までの成果と課題（新規応募団体は記載不要）	
事業初年度より総合調整会議を年2回（令和3年度の2回目は2月末に開催予定）開催し、関係機関による取組や課題意識の共有を行ったが、上がった意見の取り込み、事業化の検討、モデル事業の実施、その検証のサイクルを十分に回し切れなかった。 「日本語を母語としない小・中学生のためのオンライン教室」に多数の児童生徒等からの参加申し込みがあり、オンラインという居住地や環境に囚われない新たな日本語学習の場を提供することができた。 保護者に対する事後アンケートの結果、オンラインによる学習ニーズの高まりを確認できたとともに、個々の日本語の理解度に合わせた1対1の学習方法が効果的であったことが確認できた。 一方、参加者へのアンケートから、開催回数の拡大や、集合型の教室の必要性が見えてきた。また、運営側の反省として、参加者一人ひとりの学習成果を図る指標/基準の導入や、本教室の情報が届いていない潜在的な学習者やその保護者に対する効果的な情報提供の方法について課題が残った。	
④令和4年度の目標	
・ 総合調整会議において、日本語教育が必要な児童生徒とその保護者を主な対象に、地域日本語教育において支えるための課題と方策、役割分担について検討する。 ・ 地域日本語教育の体制強化として、総合調整会議において仙台市関係課（国際事務主管課・教育委員会事務局）及び地域日本語教育実施機関と地域日本語教育に関する各種情報の共有を図るとともに、広く市民に地域日本語教育に関する情報を発信するためのポータルサイトを開設する。 ・ 前年度までの課題を踏まえた上で日本語教育が必要な児童生徒を対象とした「日本語を母語としない小・中学生のためのオンライン教室」の実施回数を拡充して実施し、より定期的に日本語を学ぶことができる機会を創出する。 ・ 日本語教育が必要な児童生徒の保護者を主な対象とした成人のためのオンライン日本語教室を開催することで、受講者の学校、日常生活、職場等の日本語使用場面におけるコミュニケーションの質の向上をはかる。 ・ 地域日本語教育に関心のある市民を対象にガイダンスを開催し、学習支援者のすそ野を広げるとともに、日本語教育が必要な児童生徒支援のためのノウハウを共有する。 上記の取組に付随して、地域日本語教育実施機関の継続的な運営協力のため、上記オンライン教室の運営を通じて得られたノウハウ等の提供を行う。	
⑤令和4年度の主な取組内容	

- ・【新規】日本語教育が必要な児童生徒に関する仙台市関係課との情報連携体制の強化
- ・【新規】地域日本語教育の充実のための市民向けポータルサイトの開設
- ・【拡充】日本語を母語としない小・中学生のためのオンライン教室の実施
- ・【拡充】日本語教育が必要な児童生徒の保護者を主な対象とするオンライン教室の実施
- ・【新規】地域日本語教育のすそ野の拡大のためのガイダンスの実施

3 事業の実施体制

(1) 実施体制(図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター、調査計画推進コーディネーターを含めて記載してください。)



			係主任	ディネーター)
10	吉永絵美	仙台観光国際協会	多文化共生課企画係職員	日本語ボランティア担当（地域日本語教育コーディネーター）

（２）域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

- 外国人につながる子どもを対象として学校と地域における初期日本語学習支援の充実を図るため、関係機関へのヒアリング等を通じて、学校、教育委員会、仙台観光国際協会等での連携・ネットワークの構築を進めた。 - 地域日本語学習支援検討会を開催し、仙台市内の地域日本語教室が地域日本語教育のプログラム編成・実施に関わる諸課題について検討するとともに、各団体の連携を進めた。 - オンライン教室の実施に際して、大学や既存の地域日本語教室を通じ、学習者・学習支援者の参加を呼び掛けた。学習者・学習支援者はオンライン教室への参加・見学を通じてオンラインでの学習支援やオンライン教室運営のノウハウを共有し、教室間の連携を推進した。

４ 令和４年度の実施内容

（１）実施内容

１．広域での総合的な体制づくり				
【必須項目】				
（取組①）総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	遠藤英樹	仙台市交流企画課	交流推進担当課長	仙台市国際事務主管課
2	笹敦史	仙台市教育指導課	指導主事	仙台市教育委員会事務局
3	大泉貴広	宮城県国際化協会	総括マネージャー	連携団体
4	河田文子	アイカス国際都市仙台を支える市民の会	さっと日本語クラブ担当	連携団体
5	田所希衣子	外国人の子ども・サポートの会	代表	連携団体
6	森野カロリナ	日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイダンス宮城	副実行委員長	連携団体
7	田村由香子	外国につながる子どもサポートせんだい	コーディネーター	子ども支援
8	小河原義朗	東北大学大学院	文学研究科教授	アドバイザー
9	高橋亜紀子	宮城教育大学	教授	子ども対象オンライン教室
10	吉田環	Yurt 東北日本語教師協働会	日本語教師	成人対象オンライン教室
11	須藤伸子	仙台観光国際協会	国際化事業部長兼多文化	事務局統括

			共生課長	
②実施結果				
実施回数	2回			
実施 スケジュール	6月 第1回総合調整会議 11月 第2回総合調整会議			
主な検討項目	・ 令和3年度地域日本語教育の体制整備事業事業報告 ・ 仙台市における外国籍児童生徒等の在籍・支援状況について ・ 地域日本語教育の体制整備事業 令和4年度 実施目標・計画 ・ 「日本語を母語としない小・中学生のためのオンライン教室」について ・ 「SenTIA オンラインにほんご」(成人対象のオンライン日本語教室)について ・ 地域日本語学習支援検討会(9月26日実施)について ・ 地域日本語教育ポータルサイト作成計画について			
(取組②－1) 総括コーディネーターの配置				
・ 総合調整会議(取組①)を運営した。 ・ 本事業を担当する仙台観光国際協会職員を任命した。 ・ 事業の中核メンバーと連携・協働し、市内の地域日本語教育体制づくりを推進した。具体的には、取組③、取組⑤、取組⑥について、担当する地域日本語教育コーディネーターと連携し、総合的な体制づくりの観点から各取組を統括・運営した。また、取組⑦について、関係する機関・団体と情報交換しつつ開設に向けた準備を進めた。				
(取組②－2) 地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組				
地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】				
地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【()】				
・ 地域日本語教室との連携推進およびネットワーク構築を主な業務とする仙台観光国際協会職員を地域日本語教育コーディネーターとした。 ・ 仙台市内で日本語学習支援に携わる市民ボランティアのコーディネーションを主な業務とする仙台観光国際協会職員を地域日本語教育コーディネーターとした。 ・ 子ども対象のオンライン教室、成人対象のオンライン教室担当者を地域日本語教育コーディネーターとした。 ・ 「日本語を母語としない小・中学生のためのオンライン教室」のプログラム編成・運営を担当する大学教員を教室コーディネーターとした。 ・ 「SenTIA オンラインにほんご」(成人対象のオンライン日本語教室)のプログラム編成・運営を担当する日本語教師を教室コーディネーターとした。 ・ 総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーター、教室コーディネーターは適宜情報共有・連携を図りつつ、仙台市における総合的な体制づくりを進めた。				
(取組②－3) 調査・推進計画策定コーディネーターの配置				
取組なし				
【重点項目】				

(取組③) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組			
・ 外国人につながる子どもを対象として学校と地域における初期日本語学習支援の充実を図るため、関係機関へのヒアリング等を通じて、学校、教育委員会、仙台観光国際協会等での連携・ネットワークの構築を進めた。 ・ 地域日本語学習支援検討会を開催し、仙台市内の地域日本語教室が地域日本語教育のプログラム編成・実施に関わる諸課題について検討するとともに、各団体の連携を進めた。 ・ オンライン教室の実施に際して、大学や既存の地域日本語教室を通じ、学習者・学習支援者の参加を呼び掛けた。			
(取組④) 市区町村への意識啓発のための取組			
取組なし			
(取組⑤) 日本語教育人材に対する研修			
日本語学習支援を希望する市民を対象に、地域日本語教育の理念や活動について学ぶセミナーを実施した。今年度は、外国につながる子どもの日本語初期指導をテーマに実施し、日本語教育人材のすそ野拡大を図った。具体的には下記のとおり。 名 称： SenTIA 地域日本語教育セミナー「外国につながる子どもの学習支援－日本語初期指導の時期に大切なこと－」 日 時： 令和5年2月26日（日）13：00-15：00 方 法： オンライン（ビデオ会議システム Zoom を利用） 対 象： ・ 学校や地域で外国につながる子どもの学習支援に関わる市民 ・ 地域日本語教育に関わる市民 ・ 外国につながる子ども支援に関心のある市民の方 参加者： 53 名 講 師： 田所希衣子氏（外国人の子ども・サポートの会代表、外国につながる子どもサポートせんだいコーディネーター）			
(取組⑥) 地域日本語教育の実施 実施するものに○ ☐ 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育 ☐ 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育			
実施箇所数	2 か所	受講者数 (実人数)	86 名
活動 1	【名称】 日本語を母語としない小中学生のためのオンライン教室（既設） 【目標】 日本語教育が必要な児童生徒に対し学習機会を提供し、生活のための日本語を学ぶ機会を提供する。 【実施回数】 30 回（10 回×3 期、1 回あたり 1 時間） 【受講者数】 52 名（延べ人数：第 1 期 23 名、第 2 期 24 名、第 3 期 32 名） 【実施場所】 オンライン（ビデオ会議システム Zoom を利用） 【受講者募集方法】 市内小・中学校、教育委員会、関係機関を通じての周知等 【内容】 オンラインを活用し、市内のどこからでも参加可能な教室とする。小中学生を主		

	な対象とし、いつからでも参加可能とする。運営は、教室コーディネーター1名、コーディネーター補助1名、アドバイザー1名が担当。教室の内容は、子どもの日本語学習支援を中心に行い、学年やニーズに応じて受講者ごとにカスタマイズのうえ、宮城教育大学と連携し、大学生のボランティアが行った。ICTの活用については、Zoom（オンラインビデオ会議システム）を活用し、基本的に下記のようなスケジュールで実施した（カッコ内の時間は目安）。なお、ICT機器が準備できない家庭に対しては必要に応じてタブレット、Wi-Fiルーターなどの機器を貸し出した。また、長期休暇等を利用した集合教室の開催も検討する。 ① コーディネーター・コーディネーター補助準備、入室受付（16:00-17:00） ② 開始・全体会（学習者、学習支援者全員でのアイスブレイク、連絡等）（17:00-17:15） ③ ブレークアウトルームに分かれての個別学習（17:15-17:55） ④ 全体会（学習者、学習支援者全員での振り返り、連絡等）・終了（17:55-18:00） ⑤ 振り返り（学習支援者、コーディネーターの振り返り）（18:00-19:00） 令和4年6月1日現在、仙台市内の市立学校への聞き取りから272名の外国籍児童生徒のうち小学校児童100名、中学校生徒8名が日本語指導の支援を受けているか、必要としている状況である。教室活動を通じて、学習言語としての日本語だけではなく、生活言語としての日本語の習得を支援することにより、それらの児童生徒が日常生活・学校生活双方において日本語でのコミュニケーションが可能となることを目指した。また、教室活動はオンラインで運営することにより、居住地や環境を問わず日本語学習の場にアクセスできる環境づくりを進めた。 【実施期間】令和4年6月1日（水）～7月1日（金）、令和4年11月9日（水）～12月14日（水）、令和5年3月1日（水）～3月24日（水）毎週水曜日・金曜日 午後5:00-6:00 【講師】各期コーディネーター、アドバイザー、コーディネーター補助1名（うち、日本語教師1名） 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無 【関係機関との連携】宮城教育大学（コーディネーター補助および学習支援ボランティアの募集・調整、学習者とのマッチング）
活動2	【名称】SenTIA オンラインにほんご（既設） 【目標】日本語初学者を主な対象として、生活のための日本語を学ぶ機会を提供する。 【実施回数】20回（10回×2期、1回あたり1.5～2時間） 【受講者数】34名（延べ人数：第1期21名、第2期17名） 【実施場所】オンライン（ビデオ会議システムZoomを利用） 【受講者募集方法】ウェブサイト、関係機関・団体を通じての周知等 【内容】昨年度までの取組みを踏まえ、外国につながる子どもが学校や地域社会で安心して暮らし、学ぶことができる環境づくりには、子どもだけではなく、その保護者への支援も重要である。そこで、地域日本語教育においてオンラインを活用し、市内のどこからでも参加可能な教室を実施した。日本語教育が必要な児童生徒の保護者を主な対象とし、いつからでも参加可能とした。運営は、教室コーディネーター1名、講師2名が担当した。

	この活動は一義的には外国につながる子どもの保護者を対象としているが、日本語コミュニケーションの改善は地域社会や就労の現場などあらゆる場面での生活の向上につながることであることから、学習テーマは学校における日本語だけではなく、生活一般に用いられる日本語について取り扱うこととした。 【実施期間】令和4年8月31日（水）～11月2日（水）毎週水曜日午前10：00-11：30、令和5年1月10日（火）～3月14日（火）毎週火曜日午前10：00-12：00 【講師】コーディネーター1名、ファシリテーター2名（うち、日本語教師3名） 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有 【関係機関との連携】オンライン教室の運営ノウハウや初学者向けの学習支援方法について関係団体や市民ボランティアと共有するとともに、意見交換を行った。
（取組⑦～⑧）その他の取組	
（取組⑦）地域日本語教育ポータルサイトの開設 関係機関・団体での情報共有および地域日本語教育に携わる市民への効果的な情報提供を行うため、地域日本語教育に関するポータルサイトを開設した。ポータルサイトでは、地域日本語教室の運営に携わる市民、学習支援に携わる市民、および関係機関を対象に教室運営や学習支援に資する情報提供を行うとともに、日本語学習を希望する外国人を対象に日本語教育に関する情報提供を行う。また、仙台市内の地域日本語教室に関する情報や、当協会が運営するオンライン教室に関する情報を掲載した。	
（取組⑧）地域日本語学習支援検討会の開催 仙台市における地域日本語教育の推進を目的に、関係団体との情報共有を通じて連携を図るため、地域日本語学習支援検討会を開催した。地域日本語学習支援検討会では仙台市内の地域日本語教室が地域日本語教育のプログラム編成・実施に関わる諸課題について検討するとともに、各団体の連携を進めた。 日 時：令和4年9月26日（月）14：00～15：30 参加方法：オンライン（ビデオ会議システム Zoom を利用） 参 加 者：市内の日本語教室担当者17団体22名、仙台市職員2名、事務局5名 内 容：1）市内の外国人住民の状況等について 2）ウクライナ避難民への対応について 3）日本語教育の体制整備事業について 4）新規日本語教室の紹介、オンラインクラスの事例紹介 5）各教室の現状等について情報交換	
2. 市区町村の日本語教育の取組への支援	
（取組①）市区町村を支援して実施する日本語教育	
取組なし	
（取組②）取組1以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育	
取組なし	
3. 「日本語教育の推進に関する法律」第11条に基づく基本的な方針の作成	
（取組①）基本的な方針を作成する上で必要となる委員会の設置	

【委員会の実施結果】				
実施回数	取組なし			
実施スケジュール	取組なし			
主な検討項目	取組なし			
【設置する委員会は、条例に基づく委員会か】				
【 】 条例に基づく 【 】 それ以外（※どちらか○で選択）				
	氏名	所属	職名	役割
1				
（取組②）委員会における審議の基礎資料とするための調査実施				
取組なし				
（取組③）委員会における調査審議を踏まえた基本的な方針の作成				
取組なし				

5 主要な取組の実施状況

令和4年4月	
5月	
6月	第1回総合調整会議（取組①） 日本語を母語としない小中学生のためのオンライン教室（取組⑥）
7月	
8月	SenTIA オンラインにほんご（取組⑥）
9月	地域日本語学習支援検討会（取組⑧）
10月	
11月	第2回総合調整会議（取組①） 日本語を母語としない小中学生のためのオンライン教室（取組⑥）
12月	
令和5年1月	SenTIA オンラインにほんご（取組⑥）
2月	SenTIA 地域日本語教育セミナー「外国につながる子どもの学習支援－日本語初期指導の時期に大切なこと－」（取組⑤）
3月	日本語を母語としない小中学生のためのオンライン教室（取組⑥） 地域日本語教育ポータルサイトの開設（取組⑦） 事業終了、実績報告書の提出

6 評価と検証

1. 令和4年度の計画の評価と検証方法
【令和4年度の目標】（再掲）

- ・ 総合調整会議において、日本語教育が必要な児童生徒とその保護者を主な対象に、地域日本語教育において支えるための課題と方策、役割分担について検討する。
- ・ 地域日本語教育の体制強化として、総合調整会議において仙台市関係課（国際事務主管課・教育委員会事務局）及び地域日本語教育実施機関と地域日本語教育に関する各種情報の共有を図るとともに、広く市民に地域日本語教育に関する情報を発信するためのポータルサイトを開設する。
- ・ 前年度までの課題を踏まえた上で日本語教育が必要な児童生徒を対象とした「日本語を母語としない小・中学生のためのオンライン教室」の実施回数を拡充して実施し、より定期的に日本語を学ぶことができる機会を創出する。
- ・ 日本語教育が必要な児童生徒の保護者を主な対象とした成人のためのオンライン日本語教室を開催することで、受講者の学校、日常生活、職場等の日本語使用場面におけるコミュニケーションの質の向上をはかる。
- ・ 地域日本語教育に関心のある市民を対象にガイダンスを開催し、学習支援者のすそ野を広げるとともに、日本語教育が必要な児童生徒支援のためのノウハウを共有する。

上記の取組に付随して、地域日本語教育実施機関の継続的な運営協力のため、上記オンライン教室の運営を通じて得られたノウハウ等の提供を行う。

【令和４年度の目標達成に向けた指標（定量評価・定性評価を含む。）】

【指標１：定性評価目標】

日本語教育が必要な児童生徒に関する仙台市関係課との情報連携体制の強化

定量的な計測が困難であることから、日本語教育が必要な児童生徒に関して仙台市関係課と達成できた項目、既存の取組における改善できた項目、新たに取り組むことができた項目等を成果として報告することとする。

⇒総合調整会議での課題共有等を通じて、仙台市教育局教育指導課、学事課と仙台市内の学校に入学・編入する外国につながる子どもやその保護者の日本語学習支援のための体制づくりが進められた。具体的には、新たに仙台市内の学校に外国につながる子どもが入学・編入するにあたって、学事課からその保護者や学校に対して当協会の情報提供を行うことや、教育指導課から当協会に対して入学・編入に関する情報がこれまで以上にきめ細かく提供されるようになった。そしてそれらの情報共有を通じ、子どもや保護者に対する日本語学習支援のための情報提供が行われるようになっている。

【指標２：定量評価目標】

地域日本語教育ポータルサイトの開設における情報発信数

情報発信のアウトプット数（週１回程度の更新）を目標として設定することで、事業に参画する団体や学習者といった日本語学習に関わる方へ必要な情報が簡便にかつ過不足なく行き渡る仕組みをつくるだけでなく、サイトを定期的に見る習慣づけを図りたい。

○目標値 50 回（前年度実績：測定なし）

○実績値 0 回

⇒ポータルサイトの開設について、内容の検討に時間を要したことなどにより、当初の予定よりも大幅に遅れ、ポータルサイトを通じた情報発信を令和４年度中に実施することはできなかった（年度末に公開した）。しかし、ポータルサイトの開設は完了し、来年度以降に情報発信に取り組める体制はできたことから、令和４年度の目標を令和５年度に達成することとしたい。

【指標 3：定量評価目標】

日本語を母語としない小・中学生のためのオンライン教室に参加する学習者

仙台市内の学校に在籍する日本語教育が必要な児童生徒のうち約 2 割の児童生徒がこの活動に参加することを目標としたい。

○目標値 20 名（前年 20 名）

○実績値 27 名（受講者数全 57 名のうち仙台市内在住参加者）

⇒令和 4 年初頭からの入国規制緩和の影響もあり、仙台市内における外国人住民数は過去最高を記録している（令和 5 年 3 月 1 日現在）。約 270 名の帰国・外国人児童生徒等および 100 人の日本語指導を必要としている児童生徒の数を考えると、目標値は達成したものの必要な支援が行き届いているとは言い難い。さらなる周知・広報を行うとともに、教育局担当課とも連携しつつ支援を必要としている家庭に確実に情報が行き届くよう取り組みたい。

【指標 4：定量評価目標】

SenTIA オンラインにほんごに参加する学習者

「活動 1」の児童生徒向けの教室では、仙台市内の学校に在籍する日本語教育が必要な児童生徒の約 2 割の参加を目標にしていることを踏まえ、その保護者を主な対象と想定すると、学習を必要とする約 2 割の世帯を目標としたい。

○目標値 累計 20 名（前年測定なし）

○実績値 累計 34 名

⇒令和 4 年度は、主に児童生徒の保護者を対象として実施したところ、特に初学者のための日本語学習機会の充実が課題であることが浮かび上がった。そこで、第 2 期の実施にあたっては、初学者を対象を絞ったコースデザインをするとともに、そのための教材も作成した。仙台市における日本語教室では、初学者を対象とする学習機会の提供は限られていることから、令和 5 年度も引き続き「SenTIA オンラインにほんご」を実施することとする。また、本教室を修了した学習者には、既存の教教室、当協会でコーディネートする日本語学習支援ボランティア、オンラインの自己学習教材などの紹介を通じ、自立した言語使用者のレベルまで到達することを目指す。また、当協会のオンライン教室だけでは日本語初学者のニーズに応えることは難しいことから、オンライン教室の実施で得たノウハウについて地域日本語教室を運営する市民などの関係者や関係機関・団体との共有化を図る。

【指標 5：定量目標】

SenTIA 地域日本語教育セミナー「外国につながる子どもの学習支援ー日本語初期指導の時期に大切なことー」の参加人数

昨年度に試行的に実施した子ども向け教室には学生ボランティアが学習支援者として 63 名参加し、また成人向け教室には講師・学習支援者としてそれぞれ 20 名が参加したことから、その約 3 割となる 30 名の市民を対象に地域日本語教育についてのガイダンスを開催する。

○目標値 30 名（前年測定なし）

○実績値 53 名

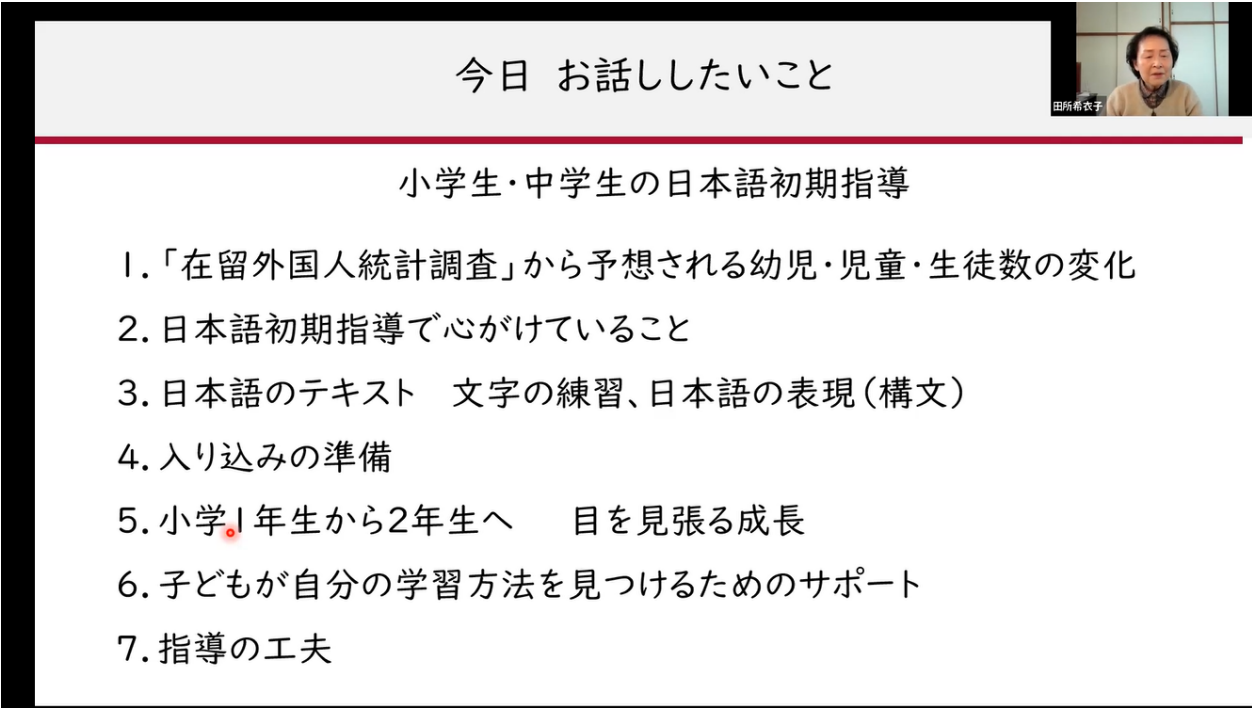
⇒セミナーの実施を通じて、外国につながる子どもの日本語初期指導の心構えや具体的なノウハウについて

て、日本語学習支援に携わる市民や、日本語学習支援に関心のある市民と広く共有することができた。今後は仙台市が実施する「帰国・外国人児童生徒等指導協力者派遣事業」に登録する市民等との共有を図る必要がある。
2. その他、令和4年度事業の評価と検証方法
取組なし

7 検証を踏まえた課題と今後の展望

1. 検証を踏まえた課題と今後の展望
(1) 検証を踏まえた課題 仙台では従来から留学を目的として在留する外国人が多かったが、近年は就労をはじめとする多様な外国住民が増加している。本事業で外国につながる子どもの日本語学習支援に取り組む中で、その保護者など成人を対象とする日本語教育の充実を図ることが課題として浮かび上がった。そこで、令和4年度は成人を対象とするオンライン日本語教室（第1期）を6月から実施したところ、特に日本語初学者の学習ニーズが高いことが見えてきた。初学者を対象とするオンライン教室については、そのノウハウが蓄積されていないことから、11月からの第2期においては教材の作成を含めてコーディネーター、講師を中心に運営方法を検討しつつ進めたところである。初学者に対するオンライン教室の運営には課題も多いが、市民団体での運営は難しいことから、当協会が取り組んでいく必要性があると考えている。 (2) 今後の展望 令和5年度においても引き続き関係機関・団体との連携を図りながら、外国につながる子どもの日本語学習支援のための環境整備に取り組んで行く。また、オンライン教室については、外国につながる子どもを対象とする教室を継続するとともに、日本語初学者の成人を対象とする教室のより効果的・効率的な運営を図って行く。さらに、日本語初学者を対象とするオンライン教室の運営についてのノウハウを関係団体や市民と共有し、地域日本語教育のすそ野の拡大に取り組んでいきたい。
2. その他、課題と困難な状況への対応方法等
(1) 課題と困難な状況への対応方法 日本語初学者に対する日本語教室の運営ノウハウの蓄積がなかったことから、東京都港区や岩手県国際交流協会が実施するオンライン教室をコーディネーターや講師が見学し、運営の参考とした。また、関係団体や市民にオンライン教室の見学を呼びかけ、見学者から運営や学習支援についてのフィードバック・コメントをいただき、今後の参考とした。

【参考写真一覧】

取組番号	写真名
①	第1回総合調整会議
 The screenshot shows the Sendai City website with a green header. Below the header, there's a list of services on the left and a table of contact information in the center. At the bottom, there's a video conference interface with four participants.	
⑤	SenTIA 地域日本語教育セミナー 「外国につながる子どもの学習支援－日本語初期指導の時期に大切なこと－」
 The screenshot shows a presentation slide with the title '今日 お話したいこと' (What I want to talk about today). Below the title, it says '小学生・中学生の日本語初期指導' (Initial Japanese language instruction for elementary and middle school students). There is a list of seven points: 1. 「在留外国人統計調査」から予想される幼児・児童・生徒数の変化 2. 日本語初期指導で心がけていること 3. 日本語のテキスト 文字の練習、日本語の表現（構文） 4. 入り込みの準備 5. 小学1年生から2年生へ 目を見張る成長 6. 子どもが自分の学習方法を見つけるためのサポート 7. 指導の工夫	

⑥-1

日本語を母語としない小中学生のためのオンライン教室

3450 + [] = 7835

(2) 3450 - [] = 672

(3) [] - 1075 = 4029

ひかれる
ひくがず
こえ

【すぎるまどリル】
<https://sukiruma.net>

3 [はるか]

SenTIA

Hasitha Waidyasooriya's iPad

⑥-2

SenTIA オンラインにほんご



【参考資料一覧】

取組番号	資料名	NEWS 掲載
	なし	